

*ワーカーズ・コレクティブ (W.Co) とは…
同じ目的を持った仲間が作り出す、地域に有用な事業/出資・労働・経営を全員で担う/働くことを通し、社会的・経済的・精神的自立をめざす

1 デイサービスセンターどんぐりの家を訪問 1月14日

どんぐりの家を訪問した日は日差しがいっぱい差し込んでいる部屋に6人の女性たちが来園されていて、スタッフとして所長の石尾さん、江頭さん(男性)と女性の方、調理担当の古関さんと4人でお世話をされていました。節分が近いということで大きな鬼の面(とてもかわいい)にそれぞれのペースにあわせて折り紙をちぎって貼り付ける作業、計算問題のプリントをするおばあちゃんやお風呂に入る人のお世話をしたりなど、皆に声をかけながらされていました。私たちも



どんぐりの家

トランプやお話の輪に入れてもらい一緒に過ごしたのですが、92歳の方も2人おられ、皆元気なのに驚きました。

昼食メニューは「ごはん・味噌汁・ポトフ風ロールキャベツ・ひじきの煮物・

事務局 保田靖子

2 八街の「風の村保育園」を訪問 1月20日

風の村保育園は、0歳児から就学前までの児童が約60名在籍し、2名の調理担当者が園児と先生方の昼食と、10時のおやつを月曜から金曜まで作っています。土曜日はお弁当の日だそうです。

スチームコンベクションをフルに活用して、極力油を使わずヘルシーな調理方法で、手早く主菜からおやつまでを仕上げていきます。幼稚園給食は管理が厳しく、前日の下ごしらえはだめ、冷蔵で届いた食材を冷凍保存して使用することもだめ、当日も2時間以内の処理、と厳しい制約があり、それでも残菜を出さないことは大変な努力だと思います。少人数のため、ロットの大きい生活クラブ・スピリッツの食材はとりずらく、また園児の昼食の御飯は持参するので、米の消費も少なく、共同購買の利用結集は難しい面が多いようです。

食器や調理器具などを乾燥させる、業務用冷蔵庫と間違えるような大きい温風乾燥機や、コンベクションオープンなど、

設備も衛生面でも、とても良い環境でうらやましく思いました。園内も室内も広く明るく、厨房の中からも、運動場の子どもの様子が見えてのびのびしている様子を感じられました。

(企) W.Co菜の花 藤田美砂



風の村保育園の厨房

3 生活クラブ生協理事の配送業務受け入れ 2月3日

2月3日(水) 11時、柏センター2階「あい」事務所で、生活クラブ生協理事の中井孝子さんにお会いし、午後の配送担当者が出勤するまでの間、設立の経緯・現在の組合員人数・事業内容・ここ数年の事業状況などについて概要をお話しました。

実務では、2階で担当者が配達伝票類の準備の説明をして、1階倉庫では実際に配達伝票に従って積み込みを行うところを見学してもらいました。ちょうど午前便の車が帰ってくる時間で、帰着した車

から空き瓶や空ケースを片づける人、午後便の積み込みを行う人など朝の出発時につく賑やかな時間を体験していただけたかと思えます。

添乗コースは、生活クラブ千葉発祥の頃からの組合員が多い地域です。担当者は、組合員の方とのコミュニケーションを取ることを第1に配達に当たっていると話してくれました。11時から15時半の4時間半の研修でしたが、どのような感想を持たれたか気になるところです。

(企) わーかーず・あい 浜 たづ子

85号1面訂正とお詫び

(企) わーかーず・あいの記事で、3月から牛乳配達受託に使用する「冷凍車2台」は「3台」の誤りでした。関係各位に、謹んでお詫び申し上げます。

広報部

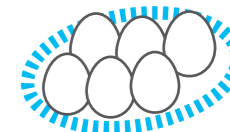
12月運営委員会報告

- ★法制化の進捗
- ★連合会ホームページ更新の目的と進め方
- ★中期計画策定の進め方
- ★子育て支援事業起業講座

- ★W.Coの日及び展示会への出店事業所の決定
- ★生協納入品原材料表示学習会

あいっこ(旭愛農の卵)の取り組みが始まります

食の事業所が利用している共同購買の卵は、現在、鹿川グリーンファームのものです。千葉の生産者の旭愛農の卵を使いたいという要望は以前からあり、このたび実現することになりました。



2月5日、共同購買事業部で、旭愛農見学会を実施しました。旭愛農にとってワーカーズ・コレクティブ(以下W.Co)の訪問は初めてなので各々の事業所を紹介し、野菜やコメの若い生産者から生産に対する思いをお聞きして、相互理解を深めました。お昼は、菜の花が早朝出勤をして作ってくれたお弁当(もちろん旭愛農の卵で作った卵焼き入り)を皆で食べ、W.Coの思いを理解してもらえたのでは、と思います。

午後、赤座さんの鶏舎を見学。3万羽の鶏が1日1トンの卵を産むそうです。

ゴトウさくら、ゴトウもみじという国産の鶏を雛から育てて、飼料も独自に配合したものを使い、おから、醤油かす(タイハイのもの)、米ぬかを混ぜてエサを発酵させることも試験的に行っているそうです。鶏糞を発酵させたものは、すでに米の肥料に使われていて、むだなく循環されています。

鳥インフルエンザなどの影響から雛育成の鶏舎は、見学できません。成鶏舎も外からの見学でしたが、太陽の光が射し、気持ちよく風が流れています。

卵の規格や荷姿について双方で確認しました。旭愛農、生活クラブ生協の協力で利用できるようになった千葉の安心・安全な卵、毎日欠かすことができない重要な素材です。お弁当・惣菜作りに、ますます腕を発揮し、生かしてい

たいと思います。

また旭愛農との交流会の企画、合同イベントもという話もあり、今後は楽しみです。

(企) W.Coウィンディスーブ 山岸和子

旭愛農のコンセプトは環境保全型地域循環農業



旭愛農生産組合理事 赤座農場 赤座繁樹

養鶏業界は、農業分野において最も経済効率化された業種で、経営規模の大規模化や飼料メーカーのインテグレーション(統合)が進み、常に競争にさらされてきました。生産者は鶏の健康や飼育環境よりも、システム鶏舎により大規模化して効率化を推し進めコストダウンを図り、卵黄色をオレンジ色や赤くすることにこだわり、そしてそれを付加価値に変えます。多くの消費者は黄身が赤ければ赤いほど栄養価が高いという誤解をしているようです。そのような卵がブランド卵として、高価な値段で販売されている現状もあります。販売流通業者の売り上げを優先せざるを得ない環境と消費者の無知がそうしたのかもかもしれません。

旭愛農は、企業養鶏ではなく農家養鶏という位置づけで養鶏をとらえています。そして環境保全型地域循環農業をコンセプトに、生まれたばかりの純国産のヒヨコから手作りのえさで鶏の健康を第一に、開放型鶏舎で1羽1羽大切に育てています。その旭愛農の取り組みを長年支えてくれたのは言うまでもなく生活クラブ生協千葉です。そしてこれから千葉県内のワーカーズにも卵の供給が始まります。その関係性を生かし相互理解のもとに、本当に大切なことは何なのか、農業そして養鶏という分野で未来に何を残せるかということを実際に考え、皆さんとともにチャレンジしていきたいと考えています。

